はるかな尾瀬

ー目　次ー

02　特集
　尾瀬エコツーリズムの取組み
04　リレーエッセイ
　身近で小さな湿原を守るにはどうしたら良いか…
06　現地情報
08　連載コラム
　①素晴らしき尾瀬の朝
　②尾瀬と子どもたちから学ぶこと
　③檜枝岐の夏休み
10　エッセイ尾瀬好日
　①山小屋組合をよろしく
　②ボランティアの遊みあるいはエール
12　尾瀬ボランティア情報
13　TOPIX
14　尾瀬保護財団からのお知らせ

2010.10 vol.14
（財）尾瀬保護財団

遥かなる燧ヶ岳〈会津駒ヶ岳〉（第14回NHK「わたしの尾瀬」フォトコンテスト入選作品ー撮影 水島俊夫さん）

尾瀬国立公園は「みんなの尾瀬を　みんなで守り　みんなで楽しむ」をスローガンとしていますが、そのココロは貴重な尾瀬の自然を資源として保護・評価しつつ、その活用を考えるという、エコツーリズムの考え方を現したものだと思います。特に昨年から尾瀬認定ガイドが活動を開始し、同時に学校での尾瀬学習が各地で始まるなど、尾瀬エコツーリズムの取組みはますます広がりを見せています。

表1　近年の尾瀬エコツーニュース

(H17)尾瀬ガイドルール作成
(H18)尾瀬ビジョン作成
　　尾瀬モニターツアー実施
　　尾瀬エコツーリズム推進連絡会議設置(～H19)
(H19)尾瀬国立公園誕生
(H20)尾瀬認定ガイド協議会発足
　　尾瀬学校スタート(群馬県)
　　自然公園ふれあい全国大会にてエコツーリズム・シンポジウム開催
(H21)尾瀬自然ガイド第1号誕生
(H22)尾瀬認定ガイド協議会が「第6回エコツーリズム大賞特別賞受賞」

今号では「尾瀬エコツーリズムの取組み」と題して、これまでの経緯を紹介しながら、今後の展望についてまとめました。

尾瀬エコツーリズムの定義とは？

環境省ではエコツーリズムの概念を「自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し、学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のありかた」としていますが、尾瀬エコツーリズムには明確な定義がなく、平成18年に設置された「尾瀬エコツーリズム推進連絡会議（事務局：群馬県、表1参照）」では定義付けする事はかえって排他的な考えを生んでしまうため、次の3項目を合意するにとどまりました。

①尾瀬では利用のルールがある程度確立されており、大半の利用者がこれを守っている。

②良いガイドと尾瀬を歩けば、満足度の高いエコツアーとなる。

③質の高いガイドを育成すれば尾瀬エコツーリズムは確立されてゆく。

こうして尾瀬エコツーリズム推進のため、尾瀬のガイド育成が本格化していきました。

ガイドの役割と認定制度
『自称ガイドから尾瀬認定ガイドへ』

尾瀬認定ガイドが誕生した平成21年以前には、地元山岳会や旅館業の方がガイドとして活動していましたが、尾瀬の知識やガイディング技術面で実力差が大きく、またガイドレシオ（ガイドと参加者の比率）の不統一による安全面・満足度の低下といった問題が生じていました。

こうした点を解決するため、尾瀬保護財団が仲介役となってガイド事業者が最低限遵守する「尾瀬ガイドルール」が平成17年に作成され、やがて関係行政・自然保護団体等が加わり「尾瀬認定ガイド協議会」が平成20年に発足しました。

図1　認定制度発足に向けた会議・研修(当時)

表2　尾瀬認定ガイド協議会の概要

(目的)
　尾瀬国立公園の自然保護と適正利用をはかりながら、環境教育とエコツーリズムを推進する。

(事業)
①認定ガイド制度の検討
②ガイド認定にかかる事業
③認定ガイド制度の広報

(受講基準　※平成22年度現在)
①尾瀬で3年、30日以上のガイド経験
②尾瀬ガイドネットワーク会長の推薦
③日赤救急員または同等の講習受講

『認定システム』

尾瀬認定ガイド協議会では「尾瀬自然ガイド」と「尾瀬登山ガイド」の2種類のガイドを認定しています。「尾瀬自然ガイド」は、尾瀬国立公園エリアから山岳地域と残雪期の一部区間を除く地域をガイド範囲とします。「尾瀬登山ガイド」は「尾瀬自然ガイド」認定者の中から山岳域や残雪期におけるガイド知識・技術を有する者を認定し、尾瀬国立公園全域をガイドすることができます。また、認定ガイドが活動できる期間は、尾瀬への道路の開通日（5月上旬頃）から閉鎖日（10月末頃）とされています。

こうして認定されたガイドを対象に、認定後もスキルアップが図れるよう、年3回程度の研修が開催されています。

『尾瀬をガイドと歩く』

尾瀬をガイドと一緒に歩けば、安全で楽しい時間を提供してくれると思います。また、認定ガイドには地元の方が多く、尾瀬と関わりながら育ってきたガイドならではの話には、尾瀬の深い魅力や尾瀬から学べること、また尾瀬で注意すべき点が含まれています。

こうしたガイド育成と活躍に支えられ、尾瀬のガイド依頼は年々増加しています。総入山者に占めるガイドツアー参加者数（「ガイド率」と仮称します）は、調査開始当時と比較して約4倍となっています。

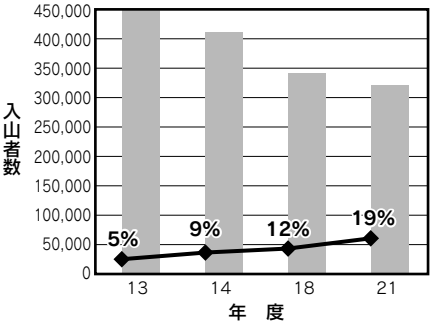

図2　尾瀬のガイド率
（表内の数字がガイド率を示す）

図3　ガイドツアー参加者は確実に増えている

尾瀬エコツーリズム推進に必要なこと

①尾瀬＝財産＝資源

さまざまなエコツーリズム活動が展開される尾瀬は、私たちやとりわけエコツアー関連事業者にとって大切な財産であり資源です。どちらも使い方を誤ると無くなってしまう物だという認識が必要です。

②尾瀬の自然の理解・保護

その活用方法は本当に財産・資源を傷つけないのか？　尾瀬の自然を理解するためには学識者や調査研究が必要不可欠です。また、活用にあたっては保護を重視した利用ルールを設定した上で行う事が必要です。

③適切な利用

尾瀬の環境保護が担保され、利用のルールが設定された上で、適切な利用を行う必要があります。エコツアーや環境学習の視点はガイドツアー中にのみ組み入れられるものではなく、あらゆる場所・機会を捉えて提供されるものである必要があります。

以上の必要条件とその関係を示したのが図4です。つまり尾瀬エコツーリズム推進にあたっては、エコツアー事業者だけでなく、学識者や土地管理者・関係行政が連携して取り組む必要があるのです。

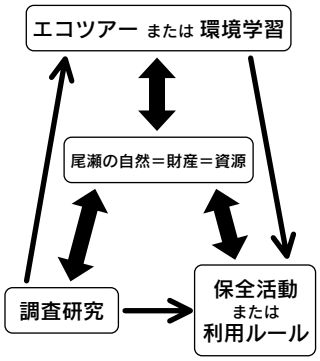

図4　尾瀬エコツーリズム推進のための必要条件

また、尾瀬エコツーリズムが発展・充実してゆくためにはさらに4つの視点が必要になってくると思われます。

④地元産業との連携
⑤子どもたちへの教育
⑥エコツーリストを増やす
⑦自立と自律

これらの説明は省きますが、より多くの方々に尾瀬を訪れてもらい、その美しさと貴重さを体験しながら、尾瀬や自然環境保護への意識を高めてもらえるよう、尾瀬保護財団も連携しながら活動を続けていきたいと考えています。

リレーエッセイ

「身近で小さな湿原を守るにはどうしたら良いか…」

冨士田　裕子

日本で最も有名な湿原といえば、尾瀬ヶ原です。これは、尾瀬がたぐいまれな美しい景観をもった我が国の山岳湿原の代表中の代表であることと、この冊子の名前にも一節が使われている、あの有名な歌「夏の思い出」によるところが大きいのでしょう。多くの山岳地域の湿原は、国立公園などの自然公園の指定を受けている割合が高く、地域の人々からも愛され、保護されているケースが多くなっています。一方、低地の湿原、特に人間活動の中心である沖積平野内の湿原は、昔から水田に転換されたり、開発されることが多く、残っているものは数少なくなっています。国立公園に指定されている釧路湿原やサロベツ湿原、天然記念物指定を受けている霧多布湿原などは例外で、多くの低地の湿原は、様々な理由で問題を抱えているものが多くなっています。その一方で、近年では、地球環境の悪化と急激な生物の絶滅の危機が一般にも知られるようになり、地域固有の自然空間、身近な自然の重要性が見直され、地域に残存する小さな湿原や湖沼などの保護運動が各地で盛んになっています。

山岳地域の湿原は、国公有地がほとんどで、保護や保全、公園指定の際に障害となる問題が低地湿原に比べると少なくなっています。一方、低地の湿原は民有地が多いのが特徴です。しかも、北海道では低地の湿原が、１９６０年代から１９８０年代に「原野商法」といって、家などを建てるのが困難な価値の低い土地を騙して売りつける悪徳商法で、細かい区画に区切られて北海道のみならず全国の人々に売りさばかれた時代がありました。このようにして売られた湿原は、保全のために自治体や保護団体が土地を取得しようとしても、多数の地権者がいるために、売買や価格に関する交渉が複雑となることから、話がなかなか進まず、保全上の大きな障害となっています。

私の住んでいる北海道札幌市を含む石狩川の下流域には、かつて石狩泥炭地とよばれる広大な湿原が広がっていました。湿原全体の面積は５万ヘクタール以上もありましたが、北海道の開拓とともにいち早く開発され、現在では農地や宅地にかわってしまい、湿原はかつての0.2％しか残っていません。そのような中で札幌市内に、絶滅危惧種のカラカネイトトンボの住む湿原（篠路福移湿原）が残存することが話題となり、地域住民が「カラカネイトトンボを守る会」を発足させました。平成９年のことです。その後、札幌市が土地の取得を試みるも、原野商法による地権者の多さと、財源の問題などから断念。平成16年、守る会はＮＰＯ法人化され、地道な活動が実を結びナショナルトラストからの助成などにより、少しずつ土地を購入したり、地元高校の理科研究部の生徒さん達のトンボの研究が様々な賞をうけたりと、札幌市内での認知度も高まってきました。

▲写真１　札幌市篠路福移湿原の様子

▲写真2
カラカネイトトンボを守る会の看板

ところが、平成13年ごろから、とある残土受け入れをしている業者が湿原を埋め立て始め、湿原は約20ヘクタールから5ヘクタールまで激減してしまったのです。埋め立てを行っている土地はすべてが業者の土地ではなく、他人の土地も勝手に埋め立てに使っているのです。しかし行政は、地権者からの申し立てがなければ、不当な埋め立てを止めることができないそうです。原野商法によって売られた土地の中には、地権者が不明であったり、土地を持っていること自体に気付いていなかったり（たとえば、現在はお孫さんが地権者になっているなど）、土地そのものに興味がなかったりなど、様々な理由で埋め立てに使われていることを地権者が知らないケースも多いようです。先日、NPOの人達と湿原を見に行きました。もともと、湿原植生は遷移が進行し、ササ原がほとんどで、ミズゴケの見られる場所は一部に限られていたのですが、埋め立てによって、湛水がひどくなり、しかも埋め立て地から流出する汚水によってドブのようになっている場所がありました。そこはたった2年でヨシ原に変わってしまいました。

▲写真3
ナショナルトラストやカラカネイトトンボを守る会の人達による湿原視察

世の中には、お金のためには手段を選ばない人、行政指導を黙殺し、倫理的にやってはいけないことをやる人が存在するのです。そんな中で、どのようにすれば、街や農地のなかに残った小さな湿原を守ることができるのでしょうか。私達の知恵と協力、そして良心が問われていると感じました。

▲写真4
不当に埋め立てが進む篠路福移湿原の様子

筆者紹介
冨士田裕子（ふじた　ひろこ）
北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園准教授、専門は植物生態学
「北海道の湿原目録の作成と湿原生態系の解明および保全に関する研究」で第13回尾瀬賞を受賞。

現地情報

原をわたる風だより

山の鼻ビジターセンターより

尾瀬のおすすめスポット

『サラブセ』…漢字表記だと皿伏、この山は登るというより通過する山ですが、その過程に魅力があります。

富士見峠から白尾山（2003m）、皿伏山（1917m）を経て尾瀬沼に向かうこのコースは尾瀬ヶ原が混雑するシーズンでも登山者の姿は少なく、知られざる別の尾瀬を堪能できます。初めての場合は富士見小屋で情報を得ても良いでしょう。富士見峠から白尾山までの登山道の両脇にはアヤメ平で見られるような季節の高山植物が登山者を迎えてくれます（特に群生するアカモノや秋のオヤマリンドウはオススメ）。

白尾山からは皿伏山までは周囲を樹林に囲まれて展望はありませんが、途中の苔むした古い木道には悠久の時間さえ感じます。

皿伏山を越えれば尾瀬沼までは緩やかな下り坂が続きますが、その途中で突然、広い湿原が姿を現します。ここが大清水平。春は遅くまでミズバショウを見ることができ、夏にはニッコウキスゲが咲き誇るコース一番の見所です。そして北側の樹林の上には燧ヶ岳の雄姿が見え、ゴールの尾瀬沼南岸が近いことを感じ取ることができるでしょう。

（沢尻　雅昭）

▲お奨めルートから望む燧ヶ岳（富士見峠～白尾山にて）

今年も調べてみました！

山ノ鼻研究見本園北側奥のベンチ3基分と中通り（至仏側分岐から尾瀬ヶ原寄りの木道3基分の範囲（約12m×1m）にあるニッコウキスゲの結実状況を昨年（2009年vol・10）に引き続き調べてみました。

株数合計41株（うち、実がついたのは39株）。実の数は合計61果。花数は花がついていた跡と結実数から推定157花（花期に数を調べていないため、参考）。

今年の見本園の調査地点は昨年よりも株数、花数共に少なかったのですが、結実率は良かったようです。

前年度よりも花期に雨が降らず、昆虫が花粉を媒介できたことが、要因の一つと考えられます。

（秋山　恵美子）

	株数	花数	実数	結実率
H22	41	157	61	38.85%
H21	122	464	38	8.19%

▲今年の研究見本園のニッコウキスゲ

至仏山植生回復事業

尾瀬の山でも珍しく、隆起によってできた蛇紋岩という特異な環境で育つ、貴重な植物たちの宝庫として親しまれてきた至仏山。それが故に利用の高まりなどの影響で登山道の荒廃が進み、その保護の為に今まで様々な手立てを行ってきました。そして、今年より至仏山植生回復事業が立ち上がり、現地調査を経ていよいよ秋より現地作業が始まりました。利用者と関係者の相互理解を得ながら作業を進めてまいります。具体的には、まず「裸地D」と呼ぶ箇所の土壌の流出を防ぎ、植物の生育環境を整え復元を目指します。場所がら機械が使えませんし、作業量も膨大なもので多くの人手が必要になります。関係者のみでは、とてもはかどるものでもありませんので、皆様に協力をお願いする場面もあるかと思います。その時には、是非多くの方のご協力をお願い致します。

（西口　俊一）

▲植生回復作業のようす
高山での作業は苦労があるがやりがいも多い

現地情報

おこじょだより

尾瀬沼ビジターセンターより

星空観察会

昨年に続き今年も、通常のスライドショーの後に天気が良い日を選んで星空観察会を行っています。星と星座の解説や望遠鏡での月面観察、これからの季節は木星とその衛星の観察も行いたいと思っています。

周囲に灯りが少ない尾瀬では、今でも天の川が見えますし、流れ星もしばらく空を見ていれば数個の単位で流れます。また、人工衛星（光る物体がゆっくり動いている！）が意外と数多く見えるのには驚きました。

▲星空観察会

織り姫、彦星の伝説なんて、覚えていらっしゃいますか？小学校の頃に習った？そんな昔に帰って星空を眺めてみるのも楽しいのでは？

もともと湿度の高い場所ですので、直前まで晴れていたのにスライドショーの時間になると急に曇ってしまうことがあります。星空観察会の担当は、スライドショーの時間が近くなるとそわそわ、レクチャールームから何度も外に出て、雲の様子を確認しています。猛暑の今年は、特に夕方から急に入道雲が出てくる確率が高いようです。

と、いうことで、できれば事前に星空観察会の日を決めて、お知らせできればよいのですが、なかなかそれが出来ず、抜き打ち的に通常のスライドショーの後に観察会を行っているのが実情です。ご理解ください。

星を覚えるのは、結構、苦労します。今はパソコンの星座ソフト等、便利なものがありますが、何せ相手は3Dの世界。位置関係を覚えるのに一苦労。満天の星空になると星が多すぎて、かえってどれがどの星か、わからなくなってしまいます。星の名前を覚えるのもまた大変。「ベガ」「アルタイル」「デネブ」「デネボラ」まるで呪文です。

尾瀬は間もなく長い冬に入りますが、来シーズンも、その次も美しい星空は健在だと思います。是非、尾瀬に「星」を見に来てください。

尾瀬の小さな生き物

小さな生き物探してみませんか？尾瀬にはたくさんの生き物が住んでいます。ミズバショウやニッコウキスゲのように、誰もが注目する生き物はもちろん、嫌われることの多いアブやハチなども立派な生き物です。

尾瀬沼ビジターセンターでは、「ちいさな命みつけてみよう」と題して、コケと虫こぶを紹介する展示を行いました。コケではミズゴケに注目。乾燥したミズゴケと水を吸わせたミズゴケの重さを比較できる体験コーナーも設置しました。虫こぶでは、尾瀬で見られる虫こぶの写真を中心に紹介しました。目にとめないような小さな生き物も、尾瀬の一員。そんな生き物たちを見つけられたら、尾瀬の楽しみもパワーアップです。

「でも、どうやって探せばいいの？」と思った方、水の中をのぞいてみてはいかがでしょうか？池塘や浅い沢の中にも生き物がいます。尾瀬沼ビジターセンター周辺にある溜め枡の中にも、生き物を見つけることができます。

小さなゲンゴロウ。水中を泳ぐ姿や、水面に上がってきて、おしりの先から空気を取り込んで水中に潜る様子を見ることができます。

▲ゲンゴロウ

トビケラの幼虫。葉で作ったケースに隠れているので、木の枝か何かのように見えます。よ～く見ていると、水底をモゾモゾと動く様子が見られます。

▲トビケラの幼虫

マツモムシ。水面を仰向けに泳いでいます。人が近づくと水中に潜ってしまいますが、じっと待っていると上がってきます。水面を指で揺らすと、虫などが落ちてきたと勘違いして寄ってきます。指を刺されないようにご注意ください。

▲マツモムシ

花や実の周り、ちょっとした隙間など、生き物を見つけるポイントはまだまだあります。ぜひ、探してみてください。

来館者の声　2010「思い出ノート」より

雪に覆われた尾瀬、初めてきました。圧巻です。花の尾瀬とはまた違う自然のパノラマを楽しめました。

ペースメーカーを付けていても、パーキンソンになっても、その上肺がんまで。でも、三平峠を越えて登ってきました。この次は燧に登るぞ。

夏の思い出を作りに来ました。今年で四回目です。また来てこの日記を探します。

子供の頃の夢が叶って幸せです。「尾瀬に行ってみたい」、図書館の本で見た景色を、大人になり自分の目で見て感動しました。尾瀬の風、花、鳥の声、木の匂い、暖かい人たち、みんなみんなありがとう。ここには沢山の幸せがある気がします。

■連載コラム　認定ガイドがススメる とっておきの尾瀬

素晴らしき尾瀬の朝〈貝瀬正俊（奥只見郷ネイチャーガイド）〉その3

新潟・魚沼から行く尾瀬ルートを中心に尾瀬に入山し、多様な尾瀬の魅力をお客さんに伝える奥只見郷ネイチャーガイドの貝瀬正俊さんにお話を伺いました。

(Q)尾瀬歩きが何倍も楽しくなるような尾瀬の楽しみ方はありますか。

(A)「尾瀬ヶ原の朝は素晴らしいものがあります。山小屋などに宿泊し、少し早起きをして新鮮な空気を吸いながら、外に出てみると、山の中腹にたなびく朝もやと、湿原に映える白樺、至仏山が徐々に朝焼けに染まる情景は、今日一日を楽しくさせてくれるような気分にさせてくれます」と貝瀬さん。

(Q)おススメの尾瀬スポットは。

(A)「大江湿原の大江川の橋を、尾瀬沼方向へ50mくらい行った観察テラスの7月中旬は、尾瀬沼、三本カラマツをバックにニッコウキスゲ、レンゲツツジ、ワタスゲが咲き乱れ、その様は見るものを感動させてくれます。また、尾瀬沼東岸、三平下近くの観察テラスの6月上旬は、燧ケ岳の偉容を尾瀬沼の湖面に写し、手前の湿原にはミズバショウが咲き、まさに尾瀬沼の春を代表する風景ではないでしょうか」と貝瀬さん。

抱負を伺うと、「インタープリテーション力を磨くことで、お客さんの驚きや感動を引き出せるように、また、楽しさ、おもしろさを感じてもらえるように、ガイド技術を向上させたいと思っています。参加者が良い印象を持ち『また尾瀬に行ってみたい』と感じていただければ最高です。大きな目標はありませんが、ガイドツアーでケガ、事故があってはそのツアーは台無しです。安全管理、行程管理には特に気を配り、安全で楽しいガイドを心がけていきたいです。只今68才です。体力、気力が続くまで、尾瀬のガイド活動に参加して行きたいと思っています」と貝瀬さんは話してくれました。

奥只見郷ネイチャーガイド

貝瀬正俊
〈尾瀬自然ガイド〉
tel 025-792-7300
（(社)魚沼市観光協会）
URL
http://www.city.uonuma.niigata.jp/kankou/oze/index.html

尾瀬と子どもたちから学ぶこと〈萩原喜雄（尾瀬ネイチャーガイドの会）〉その4

群馬県事業の尾瀬学校のガイドとして多くの子どもたちと出会うことで、ガイドの役割の大切さを再認識し技術向上に努めている尾瀬ネイチャーガイドの会の萩原喜雄さんにお話を伺いました。

(Q)尾瀬歩きが充実したものになる楽しみ方はありますか。

(A)「群馬県の尾瀬学校実施以来、ガイドとして小中学生と共に尾瀬ヶ原を歩き、時には雑談を交えながら尾瀬の動植物の話をしてきました。その中で、子どもたちは事前に花の名前を覚えてきて、尾瀬ヶ原でそれに出会えたときは楽しそうです。その花がどうしてそこに咲いていられるのか、子孫を残すためにどんな工夫をしているのかを話すと、不思議そうな顔が次第に輝いてくるのがわかります。生態系と言う奥深い分野が感じられるからではないでしょうか」と萩原さん。

(Q)ガイド中の印象に残るエピソードは。

(A)「山ノ鼻から鳩待峠への登りは、疲れて退屈しますが、尾瀬学校のある男子生徒は、ギンリョウソウに大変興味を持ち、発見した株を数え鳩待峠へ着くまでに47株を見つけました。葉緑素を持たないので白く不気味な姿に惹かれたのでしょう。また、オオカメノキの赤い実の前で、緑の葉に赤い実がよく目立ちますね、と言ったら即座にクリスマスと叫んだ女子生徒がいました。尾瀬学校で多くの生徒と接し、その記憶力、柔軟な発想、強い感受性、体力に改めて驚くと同時に子どもは国の宝だと実感しています。尾瀬に棲む動物や花や木がいろいろな方法で、尾瀬の自然環境に順応し、生きのび、強い子孫を残してゆく様子を少しでも理解し、命の素晴しさと大切さを尾瀬から学んで欲しいと願っています」と萩原さんは子どもたちに対する思いを話してくれました。

尾瀬ネイチャーガイドの会

萩原喜雄
〈尾瀬自然ガイド〉

tel 027-266-4604

■連載コラム

『檜枝岐の夏休み』

尾瀬から学ぶスローライフ

取材協力＝尾瀬檜枝岐温泉観光協会

沢や川、そして山々に囲まれた檜枝岐村。その豊かな自然は古より子どもたちの恰好の遊び場でした。エコツーリズムが注目される今、檜枝岐村では自然とのふれあい、そして自然の中での体験の素晴らしさを広める多くのイベントを開催しています。これらの取り組みについて、尾瀬檜枝岐温泉観光協会で伺いました。

かぶとっかり

まず、〝田舎で遊ぶ夏休み！かぶとっかり編〟と題したイベントについて尾瀬檜枝岐温泉観光協会のスタッフの方に伺いました。

「〝かぶとっかり〟とは、カブトムシやクワガタを捕まえることです。檜枝岐村には豊かな森があるので、カブトムシやクワガタがたくさん生育していて、形も大きいものが多いです。今は灯火採集といって、光に集まってくるカブトムシの習性を利用して、ライトなどを使用して捕まえる方法も行われていますが、昆虫の習性を人為的に利用するのではなく、木などにとまっているカブトムシを地道に捕まえる昔ながらの方法のほうが自然だと思いますし、その方が実際面白いです」とスタッフの方は教えてくれました。かぶとっかりは、夜間、檜枝岐村内を1時間くらいかけて歩きながら行いますが、カブトムシやクワガタを捕まるのは一筋縄ではいかないようです。

「1時間かけて村内を歩いても、一匹も捕まえられない日もあります。しかし、その捕まえられなかったということが本当の自然と向き合ったということですし、その捕まえられなかった悔しさを感じてほしい、そして再チャレンジしてほしいです。そういう風に自然とのふれあいが深まっていくと素晴らしいと思います」とかぶとっかりの意義を話してくれました。

▲観光協会スタッフによる村の文化・歴史などの説明を聞きながらのかぶとっかり

いよっかり

続けて、〝田舎で遊ぶ夏休み！いよっかり編〟について伺いました。

「〝いよっかり〟とは、いよ、つまりイワナを捕まえることで、イワナやカジカを檜枝岐川で掴み獲りをするイベントです。檜枝岐村の沢や川は水がとてもきれいなので、イワナやカジカがたくさんいます。檜枝岐の子どもたちは、昔も今も沢や川が遊び場です」と話すスタッフの方。親子で参加しているお父さんからは〝子どもたちは掴み捕りは初めての経験で下手ですが、それでもだんだんとコツを掴んで上手になってきて楽しそうです〟と言った声が聞こえています。

「子どもたちにとって、自然の川で魚の掴み捕りをすることは、生きた自然に触れ、貴重な経験になると思います。また、参加者の方々が捕った魚を炭火で塩焼きにして提供していて、食育の観点も忘れていません」と話すスタッフの方。

▲石の下に何かいるよ～、イワナかな！？

思い出いっぱいの夏休み

「檜枝岐村では、〝田舎で遊ぶ夏休み〟として、かぶとっかり編、いよっかり編、そして親子で楽しむ川遊び、の3つのイベントを実施しています。いずれも、本物の自然に触れることを大切に考えていて、そこから自然とふれあう楽しさや難しさなどを経験してもらえるように工夫しています。家族や仲間と参加する方が多く、檜枝岐村での夏が思い出深いものになり、自然への意識も高めていただけたら嬉しいです」とスタッフの方は自らも檜枝岐村の夏を楽しんでいるかのように話してくれました。

尾瀬檜枝岐温泉観光案内所

（檜枝岐村下ノ原880）

■問合わせ先
0241-75-2432

■URL
http://www.oze-info.jp/

エッセイ 尾瀬好日

「山小屋組合をよろしく」

尾瀬山小屋組合組合長
関根　進

本年7月より尾瀬山小屋組合の組合長に就任致しました、よろしくお願いいたします。

尾瀬が29番目の国立公園として誕生する迄には、多くの人との関わりがあり、自然保護への想いの歴史があった事と思います。

尾瀬山小屋組合の歴史は明治23年に平野長蔵氏が沼尻に行人小屋を開設した時よりはじまり、多くの人たちが尾瀬に訪れる様になると共に、山小屋が増開設されて来る様になり現在では28の施設が山小屋や休憩所を運営しております。

昭和30年代には宿泊施設が不足し、宿泊希望者の人達の部屋での雑魚寝は廊下へ拡大されピーク時には風呂場の中まで寝るありさまであったと聞いております。それに伴いゴミ問題、環境問題、自然破壊、事故等の問題が発生しこれらの諸問題に対して山小屋組合を結成し今日まで取り組んでまいりました。合併処理浄化槽の導入、適正利用推進のための宿泊予約制の実施、尾瀬の自然環境を守るための募金活動、山小屋としての美化清掃活動やごみ持ち帰り運動の推進、植生復元活動への協力、急病人やケガ人の救助等々、尾瀬に訪れる多くの人達、そしてこれからも訪れる人達がこの自然のすばらしさを満喫して宿泊いただけるよう取り組んでいきたいと思っております。

今、尾瀬を訪れる人達が半減する中、尾瀬の宿泊者数も半減し山小屋の運営は非常に厳しい経営状況にあります。多額の設備投資を致しました合併処理浄化槽や山小屋設備の改修費用問題、山小屋後継者問題等デリケートな問題が内在しております。どの問題一つを取っても簡単には解決はできませんが、尾瀬に関係する諸団体関係者の皆様に尾瀬山小屋の実情を理解していただき、尾瀬山小屋の運営が信頼を得て健全になる事がすばらしい尾瀬に繋がる事と確信しております。

みんなの尾瀬をみんなで守りみんなで楽しむ、その一翼を担う山小屋を目指して努力してまいります。

▲山小屋組合による美化清掃のようす
（H22.8.1実施）

▲地元関係者とアヤメ平での記念撮影
（筆者は左から2番目）

エッセイ
尾瀬好日

尾瀬ボランティア
大江多加代（No.490）

「ボランティアの遊み あるいはエール」

今年の活動は6月12日の帝釈山馬坂峠、13日の田代山猿倉登山口から始まった。というと、ものすごく活動しているように思うかもしれないが、私は年に3回も参加すれば、「今年はよく活動した」のデス。ボランティア登録をしてから十数年。この間まがりなりにも続けられているのは、ボランティアの条件として、「2年に1回」という、このゆるい規則にあると思う。

足（車）のない私は、東京から夜行バスに乗り、アルザ尾瀬の郷で下車。早朝の清々しくも張りつめた空気の中を檜枝岐事務所に向かい、財団の車に便乗させてもらう。馬坂峠ではオサバグサ祭りのため、檜枝岐村の人が記念のバッジを三々五々現れる登山者に渡している。バッジは村の職員がデザインしていて、毎年少しずつ違うのだそうだ。その横で啓発活動を行う。今日の参加者は財団の職員とボランティア二人。もう何年も前の尾瀬沼清掃に参加していたことを覚えてくれていた。

オサバグサは登山口のすぐそばに咲いている白い可憐な花だ。葉は羊歯のよう。昨年田代山の清掃活動に参加したとき、オサバグサが群生するという話を聞いて、今度は花の咲く時期にぜひと思っていた。登山者は帝釈山より、反対側の台倉高山のほうが多いように感じられる。あちらのほうが残雪が多くて面白いから？などと思いながら、入山者に声をかける。

▲オサバグサ

活動も無事終了し、オサバグサがそこかしこに咲く中を、寝不足がたたってか、はたまたこれが普通か、息を切らし、大汗をかきながら帝釈山を経て田代山へ。田代山は台形の山で、山頂に湿原が広がっている。プリンみてぇな山だとパンフレットにある。

翌朝また財団の車に拾ってもらって猿倉登山口へ。こちらでは田代山の山開きのため、関係者やら、登山者やら、大勢の人、人、人。登山口と山頂に分かれて啓発活動を行った。山頂は休憩する場所が少なく、なかには湿原にストックを置いてしまったり、足が出てしまったりする人も。私ならストレートに「すみません。湿原に足を……」となるのだが、さすが職員、ソフト。何気ないやりとりから入っていって、相手に注意された感を与えない。

3回目の活動は会津駒ヶ岳滝沢登山口。この日は私一人。第一声を発するまでは、なんだか恥ずかしいなあ。そう思いつつ、あとは図々しく。ごみは持ち帰りを、登山届を出してくださいなどと呼びかける。

ちなみに、「ください」は命令形で、目上の人には使えない。対等の間柄でも強すぎることがあると書いてある文章が目に飛び込んできた（外山滋比古著『日本語の作法』）。えぇ、命令しているのではないのだけれど。そうすると、この場合何と言えばいいのだろう。「登山届を出しましょう」となるのか。しかし、『明鏡国語辞典』には「（『下さる』の命令形）」として、「二．相手に何かを要望・懇願する意を表す」とある。そう、まさしく要望・懇願しているのだからと一人納得する。

このあと会津駒に登る。火挟みを手にして

からは清掃登山となった。行き交う人に「入山口に立っていた人ね」と声をかけてもらったり、「ごくろうさま」などと言われて恐縮してしまう。火挟みを手にするまでは、ゴミも拾わないし、手の出ないゴミもあるのです。

小屋の前に咲くハクサンコザクラは色が濃い。でも、数が少ないような。中門岳はいつ行っても気持ちがいいところ。お昼ご飯を食べていたら、なにやら雲行きが。途中ポツリときたが、やっぱり私は晴れ女だ。

その夜は湯ノ花温泉に泊まり、翌日木賊温泉から田代山に登った。ひんやり甘い沢の水をペットボトルに入れる。他の登山口に比べると時間はかかるけれど、人があまり入っていないせいか道はふかふか。聞けば、入るのは年間10人ぐらいだろうと。道の端にはピンクのテープを巻いた棒が1～2メートルおきに打ってある。距離を測るためのものだそうだが、ことごとく倒れている。鹿がいるということを聞いて、1番のゼッケンをつけた鹿が、アルペン競技よろしく、ピンクテープの棒を前脚もしくは後ろ脚で蹴散らしながら、鼻歌交じりで駆け下りてくる様が浮かんだ。そうこうしているうちに突然開けて、湿原が現れた。のんびりとおだやかな、そしてキンコウカの咲き競う休日の湿原だった。

尾瀬ボランティア情報

このコーナーは尾瀬ボランティアに登録されている方のためのページです。

●活動予定●

今シーズンも尾瀬ボランティアの皆さんには積極的に活動していただき、本当にありがとうございます。シーズンも残りわずかとなり、尾瀬でのボランティア活動も自主ボランティアを除くと、左記の至仏山柵倒し作業が最後の活動でした。シーズンを締めくくる活動でしたが、多くの方々に参加いただき、ありがとうございました。

▲至仏山柵倒し作業に参加していただいた皆さん

また、シーズン終了後は、NHK「わたしの尾瀬」写真展の開催に関連するボランティアや事務ボランティアなどの活動も予定していますので、ご協力をよろしくお願いします。活動内容は随時お知らせします。

●第15回尾瀬ボランティア総会の開催について（速報）●

今年度開催の第15回尾瀬ボランティア総会の日程と会場が決まりました。詳細については、改めてご案内します。

・開催日／平成23年3月5日（土）
・開催場所／群馬県民会館ベイシア文化ホール

●尾瀬ボランティア登録更新について●

尾瀬ボランティアの登録期間（2年間）が平成23年3月31日に終了しますので、今年度内に登録更新手続きを行います。詳細は別途お知らせします。

○尾瀬サミット2010を開催しました

平成22年9月3日、当財団の理事・評議員や関係者が尾瀬に一堂に会し、尾瀬に関わる課題などを話し合う「尾瀬サミット2010」が開催されました。今年の尾瀬サミットは、山ノ鼻地区の尾瀬ロッジでの開催で、テーマは尾瀬国立公園誕生時の原点を大切にするという考えから「みんなの尾瀬を みんなで守りみんなで楽しむ」でした。

サミットでは、尾瀬における環境学習についてや、昨年のサミットで課題として挙げられた滞在型利用の促進について、そして利用分散等を含む快適利用の促進について、当財団や関係団体からの報告があった後、意見交換が行われました。意見交換では、快適利用の促進に関することを中心に積極的な話し合いが行われ、尾瀬に関係する全ての人が協力して自然を守り、そして全ての人が尾瀬とふれあい、楽しめるように取り組んでいくことが確認されました。

また、サミット開催前には、研究見本園で朝の自然観察会が行われ、サミット参加者たちは尾瀬の自然の貴重さや魅力を改めて確認しました。

▲サミットで挨拶をする大澤理事長
（写真提供：今井隆一氏）

▲朝の観察会で職員の説明を受けるサミット参加者
（写真提供：今井隆一氏）

○尾瀬認定ガイド協議会が第6回エコツーリズム大賞特別賞を受賞しました

エコツーリズムを実施する団体などの優れた取り組みを表彰し、広く紹介することで、全国のエコツーリズムに関する活動を推進することを目的に環境省が主催している「第6回エコツーリズム大賞特別賞」を、尾瀬認定ガイド協議会が受賞しました。

尾瀬認定ガイド協議会が実施する、地元関係者との連携を図りながらの尾瀬認定ガイド制度創設やガイド利用の促進などの取り組みが評価されての受賞となりました。

▲第6回エコツーリズム大賞受賞式のようす

寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を実施し、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与したいと思っております。

◆個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。（財団への寄付を行った翌年１月１日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。）

福島県、群馬県にお住まいの寄付者 ： 個人県民税
福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方 ： 個人県民税と個人市民税・町民税

◆また、尾瀬保護財団は「特定公益増進法人」に指定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。
※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りしております。

◆企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、下記の制度があります。

種　類	条　件	特　典
特別協賛寄付	３年に渡る毎年30万円以上の寄付、または一時の100万円以上の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称、ロゴマーク、メッセージを１年間掲載 ②尾瀬国立公園ロゴマークの取扱要領に基づき使用申請ができ、許可後は無償で１年間使用
協　賛　寄　付	３年に渡る毎年10万円以上30万円未満の寄付、または一時の30万円以上100万円未満の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称を１年間掲載

■寄付につきましては、財団事務局（群馬県庁17階・027-220-4431）にご来訪いただくか、財団にご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

特別協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

尾　瀬　紀　行　尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として総額667万円余りをご寄付いただきました。平成19年より今回が４回目のご寄付となります。　（通算寄付総額　28,459,469円）

第四銀行
2010年８月23日寄付

株式会社第四銀行　今年度は70万円余りをご寄付いただきました。　（通算寄付総額　3,387,253円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。

新潟証券株式会社
2010年８月23日寄付

新潟証券株式会社　今年度は25万円余りをご寄付いただきました。　（通算寄付総額　1,202,792円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。新潟証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、 地域社会の発展に貢献してまいります。

東邦銀行
2010年６月11日寄付

株式会社東邦銀行　今年度は122万円余りをご寄付いただきました。　（通算寄付総額　4,598,931円）

群馬銀行
2010年６月14日寄付

株式会社群馬銀行　今年度は115万円余りをご寄付いただきました。（財団設立当初からの寄付を含め、通算寄付総額　23,143,158円）
寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させて頂きました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。

DIAM ダイアム
2010年６月11日寄付

ＤＩＡＭアセットマネジメント株式会社　今年度は333万円余りをご寄付いただきました。
（通算寄付総額　14,229,735円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。

2010年７月27日寄付

アサヒビール株式会社群馬支社　47都道府県において、アサヒスーパードライ缶、ビン１本あたり１円を各都道府県の売上に応じて、環境関連等の団体に寄付するもので、平成21年秋のキャンペーンに続く第３弾キャンペーンより564万円余のご寄付をいただきました。　（通算寄付総額　14,722,562円）
寄付者からのメッセージ：アサヒビール(株)群馬支社では、地域との共生や社会貢献を目標に掲げ、2009年春より、アサヒスーパードライ「うまい！を明日へ！プロジェクト“尾瀬の環境保全活動”」をスタート。売上の一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただいています。より多くの県民の皆様に主旨を知っていただき、また、賛同いただくことで、県民の皆様とともに群馬県の環境保全を進めていきたいと考えています。群馬県の子供たちの未来のために、お役立ていただけたら幸いです。

2010年７月６日寄付

エース株式会社　エース株式会社様より30万円のご寄付をいただきました。このご寄付は、2010年夏より全国で販売している「アウトドアスポーツ」ブランドの売上の一部をご寄付いただいたものです。今回を含め、今後３年間に渡りご寄付いただくことになっています。（初回寄付）
寄付者からのメッセージ：バッグ＆ラゲージメーカーのエース株式会社は、尾瀬の貴重な自然環境を守る環境保護活動に協力させていただきたいとの思いから、スポーツバッグブランド「アウトドアスポーツ」の商品売上の一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただきました。今後も多くの人々が尾瀬の美しい自然を楽しみ、その自然遺産が後生まで守り続けられることを心より願っております。

2010年３月９日寄付

ベイシアグループ　ベイシアグループ様より196万円余のご寄付をいただきました。ベイシアグループ様では、グリーン家電エコポイントの交換商品として商品券を提供しており、商品券交換金額の一定割合を、環境保全等を行っている団体等に寄付する制度のもとにご寄付いただいたものです。（初回寄付）
寄付者からのメッセージ：ベイシアグループは、「地域共生」を理念に自然環境保護にも積極的に取り組んでいます。今回の環境寄付に当たっては、当グループ発祥の地である群馬をはじめ、出店エリアの福島、新潟、栃木に広がる貴重な自然「尾瀬国立公園」の環境保全と適正利用を推進している尾瀬保護財団を選定させていただきました。群馬県が誇る豊かで美しい自然が、いつまでも多くの人々に楽しんでいただけることを、心より期待いたします。

2010年２月４日寄付

株式会社コメリ　コメリ緑資金の会様より50万円のご寄付をいただきました。このご寄付は、ホームセンターを展開している株式会社コメリ様が、利益の１％を緑の育成の為に社会還元する目的で設立されたコメリ緑資金様より助成金としていただいたものです。今回を含め、今後３年間に渡りご寄付いただくことになっています。（初回寄付）
寄付者からのメッセージ：「コメリ緑資金の会」は、日頃お世話になっている出店地域が美しい花や緑に囲まれ豊かであって欲しいと願い、平成2年より利益の１％を原資に助成活動を行なっています。尾瀬のかけがえのない自然遺産が、未来につながる次世代の子どもたちへと永遠に引き継がれることを願っています。

2009年９月11日寄付

株式会社とりせん　会社創立六十周年を記念して社員の皆様から募金された105万円余りをご寄付いただきました。（初回寄付）
寄付者からのメッセージ：会社創立六十周年記念事業の一環として、尾瀬の自然保護に役立ててもらおうと社員から募金を募り寄付をさせていただきました。尾瀬は当社の出店地域でもある群馬県・栃木県・福島県にまたがっており、我々の気持ちが貴重な自然の保護に役立てていただけることを期待します。

協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

社団法人茶道裏千家淡交会群馬県支部
2010年９月17日寄付
社団法人茶道裏千家淡交会　第43回関東地区大会の大会決議に基づき、尾瀬の自然保護のため役立ててほしいと、50万円をご寄付いただきました。（初回寄付）

株式会社福島銀行
2010年７月５日寄付
尾瀬の自然環境保護のため、52万円をご寄付いただきました。これは、販売されているエコ定期の残高の0.01％相当額をご寄付いただいたものです。　（通算寄付総額　7,580,000円）

株式会社上毛新聞社
2010年２月２日寄付
群馬県伊勢崎市にカラー印刷機能を充実させた新しい印刷センターを建設したのを記念し、24面からなる特集版を作成して配布した際の広告料の一部より50万円をご寄付いただきました。（初回寄付）

株式会社フレッセイ
2009年11月20日寄付
各店舗において、平成20年９月から平成21年８月までの間に販売した、対象商品の売り上げ１本につき１円をエコ基金として、49万円余りのご寄付をいただきました。　（通算寄付総額　701,843円）

その他の寄付者のご紹介

※敬称略

株式会社ニチネン

イベント情報 ◆◆◆◆◆

第12回尾瀬フォーラム

○開催日　平成22年12月17日（金）
○時　　間　午後２時～４時30分（予定）
○会　　場　高崎シティギャラリー
　　（群馬県高崎市高松町35－１）
○内　　容　講演会等
○参加費　無料
○その他　申込不要、会場へお越しください

第15回NHK「わたしの尾瀬」写真展

【高崎展】
○開催期間　平成22年12月17日（金）～22日（水）
　　午前10時～午後６時（22日は午後４時まで）
○会　　場　高崎シティギャラリー
　　（群馬県高崎市高松町35－１）
○入場料　無料
※高崎展終了後、群馬県内、福島県内及び新潟県内等で写真展を順次開催予定

編集後記

先日、尾瀬ヶ原のベンチで休憩していた若い女性ハイカー二人と話をする機会がありました。そのお二人は「今年春にガイド付きで尾瀬を訪れたけれども、ガイドの話を聞きながらの散策がとてもよかったので、また尾瀬に来ました！！」と楽しそうにおっしゃっていました。ガイド付きの尾瀬歩きの魅力が多くの方々に伝わり、ガイド利用がますます増えるといいなあと改めて思うひとときでした。（小）

はるかな尾瀬
財団法人 尾瀬保護財団機関誌
2010.10　平成22年10月30日発行
発行所：財団法人 尾瀬保護財団

尾瀬のミニ観察 ⑩

－ツルニンジン－

（花期：８月中旬～９月中旬）

花の色は鮮やかなものだけとは限らず、スズメバチやハエの仲間に好まれる花は、地味な緑色や褐色だ。

ツルニンジンの花は直径３cmもあるのに下向きに咲き緑色で目立たない。花の中をのぞくと、底には青紫色の星形のマークがあり、星のとがった先端に蜜が光っている。私は訪れたクロスズメバチの一種をみた。背は花粉で白くなり、花の中心に立つ雌しべに触れていた。

花の中を観察するときはスズメバチに御用心だが、一度は青紫色の星を見てほしい。

（フラワーエコロジスト　田中　肇）

『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援してくださる方々の集まりです。

年会費

○個人会員	1口	2,000円
○ユース会員（３月31日現在満22歳以下）	1口	1,500円
○家族会員（個人会員と同居の家族）	1口	1,500円
○賛助会員（団体・法人）	1口	10,000円

☆友の会の会員期間が加入から1年になりました！

友の会の会員期間がご加入から１年間となりました。これから尾瀬に行こうと考えられている方、いつ友の会に入られても、１年間フルに楽しんでいただけます。

★特典について

友の会に加入された方に次の特典をご提供させていただいております。

初回加入時：友の会会員バッチ進呈、各種資料送付
財団機関誌：年４回配布
宿泊割引：尾瀬戸倉、桧枝岐村周辺宿泊割引
（休日、祝祭日前等の除外日があります）
財団販売品の会員割引販売（通信販売）
※賛助会員の特典は財団機関誌の送付のみ

尾瀬保護財団
携帯サイト 情報配信中
緊急情報
お知らせ
ライブ映像
など
oze mobile

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1
TEL.027-220-4431／FAX.027-220-4421
E-mail info@oze-fnd.or.jp　ホームページアドレス http://www.oze-fnd.or.jp

本誌は、尾瀬の木道をリサイクルした再生紙と環境にやさしい再生植物油インキを使用しています。